

中級 B、D における T.A. の役割

日本語教育センター兼任講師
谷 啓子

○谷 ご紹介に預かりました、非常勤の谷です。2012 年から担当ということで、私にとっても‘降ってきた’科目なので (笑)、授業のデザインですとか、主な教材、本当にメインの部分は全て専任の先生方が作ってくださって、私はそれを授業にする実行部隊として担当をさせていただいております。そのため、今、藤田先生のお話を聞きながら、指導する余裕なんか無かったというふうに (笑)、特に一番はじめの TA さん、野尻さんも‘授業を一緒に作っていくパートナー’という感じで。「私も回してみないと分からないから」と本当に改善点も含めて協力をしていただきました。また、私は週に一回しか行かないですし、この一限のあとに二限がすぐ入っているので、なかなかゆっくりお話しする時間がないというのがちょっと残念なところです。

今日のお話の内容です。中級 B、D の概要、それから中級 B、D における TA の役割、それから授業、履修学生にとって TA さんがいるということが、どんなメリットがあるのか。最後は、TA さんに学んでほしいこと、現場でどんなことが見えるのだろうかという話をします。

先ほどの藤田先生と同様の内容からお話しします。中級 B、D は、聴解を重視しますので、いずれも映像素材を使用します。時限としては、木曜の一限、新座キャンパスです。TA さんが新座キャンパスに週 2 回一限に来る、これだけでも相当な負担だと思います (笑)。履修学生は今、5 期やったのですが、5 人から 13 人くらいですね。どんな映像素材かと言いますと、前期は NHK の『クローズアップ現代』から、「買わない消費者急増中」、最近の若者の消費が変わってきている、お金を使わなくなってきたという話。それから、「未婚化」の話。それから、「イクメン」育児をする男性が増えているという話。後期の D はだいぶ雰囲気が変わるのですが、NHK エンタープライズの DVD で、『しばわんこの

和のころ』というアニメーションなのですが、日本の四季の特徴や年中行事について扱ったものを使っています。【スライド⑤-2】

B、Dの流れを簡単にご説明します。VTRに沿った語彙リストをまず配布します。読みは確認しますが、意味調べは宿題です。翌週、リストの確認や発表をします。この時に注意したい語彙や表現があった時には、それを使って教室でその場で、文を作って発表する。それをもちろんTAさんにもやっていただきます。その後、語彙リストが確認できたところで実際にVTRを観る。中級Bについては、内容確認シートもありますので、そこで内容の確認をします。内容が分かったところでディスカッション。これは小グループに分かれて行いきます。中級Dについては、これが特徴なのですが、そのディスカッションは、短く切って、録音して→聞いてフィードバックというのをその場で行います。また、ディスカッションの間は、小さいホワイトボードを用意しまして、グループの中で私とTAさんが出てきた語彙をメモしてフォローしながらのディスカッションという形をとっています。最後に、テーマについてのまとめの作文またはミニ発表という流れです。【スライド⑤-3】

素材ですね。こちらは中級Bで使っている『クローズアップ現代』のホームページからとりましたが、イクメンの映像です。【スライド⑤-4】それから、『しばわんこ』はガラッと変わるのですけれども、こういうアニメーションですね。【スライド⑤-5】

B、DにおけるTAさんの役割、私がお願いしていることとお話しします。学期前から説明してあるものです。一つ目は、一参加者として、授業活動に参加してほしいということ。二つ目は、ティーチングを経験してほしい。その中で何をさせていただくかという、語彙の説明であるとか、ディスカッションのまとめ役であるとか、あと板書の補助です。結構教室が広いので、私が真ん中で話している時にTAさんに前に立っていただいて、「○○を書いて」というふうにしています。それから、履修学生へのフォロー。4番の機械操作とか、提出物回収、いわゆるアシスト業務ですね。今日は、1、2、3について主にお話をします。【スライド⑤-6】

1. 参加者としての活動に参加する。どんなことをするかというと、授業中、履修学生と一緒に全く同じタスクに取り組んで発表もしていただきます。発表の順番も、TAさんからとかTAさんが最後とかではなくて、間に入ってもらった

りしています。それからモデル発表、学生と同じものやってみてもらってくださいけれども、モデルとして最初にやる。そうすると、「ああこういう風にやるのか」と、みんなが続いていく。それから最後、学生の発表を聞いて積極的に質問してほしい。特に短い発表ですとか、最後、最終プレゼンテーションは長いものになるんですけども、「質問が出ないのはとても悲しいことなので、先生になったら、発表を聞きながら、評価もしながら、でも質問も考えるんだよ」と、「絶対質問が無いという寂しいことはないように」というふうにして、それもやっていただきました。【スライド⑤-7】

どんなワークを一緒にやっていただいたかという、これは中級Bの「買わない消費者」の導入ワークですね。これはTAさんではなくて、履修学生のもなんですが、若者の消費を考える前に、「自分はどんなお金の使い方をしているか」ということを、みんなに書いて発表してもらいました。【スライド⑤-8】TAさんにもやってもらいました。それから、「イクメン」の時には、「皆さん（履修学生やTAさん）の子どもの頃、家庭内の家事は誰がしていましたか」ということでVTRを観る前に、参考になりそうな活動をしました。これはお国柄、お家柄が出て非常に面白かったです。あの、「メイドがやります」とか（笑）。ああ、お金持ちね、はい（笑）。【スライド⑤-9】あと、これは中級Dの方ですね。中級D全体の導入ワークとして、初回のオリエンテーションでやっているものです。中級Dは内容的に旧暦ですとか、季節感が分かっていないと、そのあとと見ていくのは訳が分からなくなってしまうので、その説明をして、「じゃあみなさんの出身地では、何月から何月までが暑い、寒い？」と、季節を書いてもらって、自分が好きな季節を紹介してもらおうという活動をしました。そうするとやはり、オーストラリアから来ている学生さんは逆ですし、雨季と乾季しかないところからいらしてる学生さんもいるし、ということで、TAさんにとっても新鮮な学びになるようです。【スライド⑤-10】

TAさんの役割の2番ですね。ティーチング経験です。前期は語彙リストからの語彙説明や、日本事情的な説明、各リストにつき一つはお願いするようにしています。それからディスカッションの進行とフォロー。後期も、日本事情の説明。【スライド⑤-11】あとこれはですね、後期の語彙リストは、「ことば発表」という形でしていただくんですが、あとでお見せしますけれども、少し長めの説明になります。そしてディスカッションの進行、録音、フィードバックということ

になります。これが中級Bの買わない消費者の語彙リストです【スライド⑤-12】。見えますかね。上から「消費、過熱する、バブル、バブル時代、全盛期、ブランド物、買い漁る……」となっていて、この時には、TAさんには「じゃあバブル時代、バブルを説明して。バブル世代を説明して」ということで、説明する時には、文字だけではなくて、写真とか映像素材とか、何を使ってもいいよ、と。レベルの低い人、J4の人にも分かるように工夫してねというふうに、お願いをしています。こちらは中級Dの言葉リストで、全然趣が違うんですが、年賀状、大晦日、年神様、大掃除、私も担当した時いちいち調べて、全部勉強したんですけども。こういうものを、クラスのみんなでくじを引いて、自分があつたものを、調べてきてOHCを使って皆に説明する。その時には、「写真とか用意してきてね」と言って。そしてこの時必ずTAさんには最初の「年賀状」を。実物を持ってこられますので、お願いしています。

これは三浦さんが「味わう」の時に作って用意して下さったイラストですね。私は、次回これやってねとお願いする時に、あまり細かくは指示をしていないんです。自分で考えてもらえばいいし、みんな温かく見守ってくれるので、失敗してもいいやと思って。この時には、「味わう」って、普通に食べるのとどう違うと思う？マクドナルドのハンバーガーをがつつ食べてそれを「味わう」ことになると思う？と、その程度のヒントだけでお願いしています。そうしたら、「味わう×」「味わう○」という風にしてくれたんですが。こちらの「味わう○」の方が、遠目に見ると「舐める」や「甘い」に見えて、しかもこの柏餅が、分かったかどうかということも微妙で……これについては三浦さんが後で自分で振り返りをしてくださいました。でも、こういうことをやっぱりやってみないと、学べないんですね。【スライド⑤-13】

それから「履修学生のフォロー」ですね。背景、レベルの異なる学生が混在しますので、例えば私が、これ教室の図なんです。私がオーディオの所でスクリーンで説明しているときには、TAさんに学生さんの後ろ、なるべくJ4の方の後ろについていただいて、ちょっとフォローしていただく。そうすると、レベルによって読みが遅い、理解が遅い人も分かりますし、フォローもしてあげられます。反対に、学生さんが発表する時には、OHCの操作の補助ですとか、それはTAさんをお願いして、私の方がこちらで学生さんと一緒に聞くという形をとったりしています。【スライド⑤-14】

そして「授業・履修学生にとってのメリット」です。TA さんがいることでどんなメリットがあるか。私にとっても、履修学生にとっても、リアルな 20 代の日本人若者が、生で毎回来ているというのが大きいです。私みたいな 40 すぎた人がいても、そんなたいしたことは伝えられないんですけど、担当教師以外の日本語や価値観に触れることができる、これは日本社会を扱う中級 B、D の内容にやはり最適です。今でも忘れない、野尻さんが「こだわり」という言葉を説明する時に、みんなで作文を作ったんですけども、「私は靴のヒールの高さにこだわりがあります。5cm より低いヒールは履きません。いつもヒールの高い靴をリュックに入れて歩いて、その場所についたら履き替えるのだ。」ということをしてきて、みんなが「すごいこだわりだ！」という風に納得してくれたということがあります。それは、うまく教えようとか、そういうことを考えてないから出せる例なんだなと、感心した覚えがあります。

それから、TA さんがいることで小グループの活動が頻繁にできるという、とても有りがたいです。そうすると、学生の発話量が増えますので、満足度がすごく高く「今日いっぱい喋った気がする」と言って帰ることがあります。【スライド⑤-15】

また、学生を見る目が複数ある。そうすると、先ほども言いました、異なるレベルの学生のフォローが可能ですし、授業後に、私がもし見落としがあった場合に、「あの人どうだった？」というふうに情報のシェアができたりします。履修学生が火曜の A、C と、木曜の B、D と重複して取っている学生がわりといるんですね。そうすると、「この人向こうではどう？」というように聞いたりすることができて助かります。

それから、履修学生にとっては気軽にコミュニケーションが取れる存在。この宿題の締め切りはいつだったとか、先生には聞きにくいこと、あと火曜木曜両方取っていると、両方の宿題が頭でごちゃごちゃになっていてしまう人がいるんですけど、それは TA さんによくコミュニケーション取って聞いているようです。【スライド⑤-16】

最後に、TA さんに学んでほしいこと、というとおおがましいんですけども、中級のこの B、D の現場に入って、これが見られるから得だなというか、TA さんにとってはぜひ見てほしいことは、こんなことがあります。あえて‘学習者’と今言いますが、履修学生のレベル感、それから学習者が学ぶ、使う瞬間。

教室の現場感、これはたぶん机上ではなかなか学べないことだと思います。【スライド⑤-17】

レベル感ですね、J4、5と、単純に区切れるものではない。同じプレゼンテーション聞いていても、J6の人よりも、J4の人の方が上手に聞こえることがある。これはやっぱり、元々のプレゼンテーションスキルが高かったり、テーマに想い入れがあったりして、一生懸命準備して、練習して……そうすると適当にやった6の人よりうまく聞こえる。あとは、個の中での4技能のバランス。やはり、書くのが得意な人もいれば、話す方が得意な人もいますね。それから、母語で持つスキルが生かされるんだ、それが言語活動なんだということ。レベルがまだ4、5であっても、非常に論理的な作文を書く人もいますし、レジュメを作らせてものすごくセンスのいいものを挙げてくる学生とか、それは母語でのスキルの高さだろうなと思います。【スライド⑤-18】

それから、学習者が学ぶ、使う瞬間。特に小グループのディスカッションで、これを見ることができると思います。私たちは、言葉をボードに書いてフォローしながらディスカッション進めています、そのテーマで「今これが言いたい！」というタイミングで、その語彙が用意されているとすぐ使う。短いディスカッションですけれど、その中で何回も使うので、ちょっと高度な語彙でも使いこなせるようになってしまうんですね。同じディスカッションの中で、誰かが失敗して先生にフォローしてもらったのをを使って、また次の人が…と学習者同士が学んでいる様子ですね。このように難易度が高めの語彙でも、トピックベースであれば、使いこなすことができる。レベルの異なるメンバーでも、活動が可能なんだということを感じることができるんじゃないかと思います。【スライド⑤-19】

それから、教室の現場感ですね。教室の朝の設営はTAさんにお任せしています。オーディオラックを開けて、スクリーンを下して。そういうことをやると、一限の教室はエアコンが効いていないからとても暑いんだ、早めにエアコンに入れておいてあげたいとか、日差しがすごく強いので、OHCの映りが悪いんですね。そういう時にはスクリーンもう一つ下さないとか、そういうことはやっぱり、来ないと分からない。

それから、トラブル対応。私の授業を見てもあまり役には立たないかもしれませんが、トラブルはやっぱり起こります。DVD、映像を使っているのでフリーズしてしまったりすることがあって、そういう時にいかに何でも無かったかの

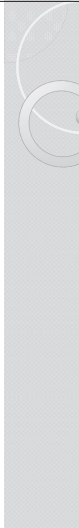
ように授業の流れを妨げずに進めるか(笑)、そういうあたりはきっと参考になるんじゃないかなと、思います。**【スライド⑤-20】**

そして私がTAさん三人を見せて頂いて、成長を感じられることは、皆さんに共通するんですが、履修学生への対応がすごく自然になっていくことです。これは、自分の立ち位置を見つけられて、関係性をうまく作れていくということです。それから、ボードへの板書が速く、簡潔になります。最初は何回も消しては書いて、をやっているんですけども、上手になりますね。また、言われたことをやるだけではなくて、自分から仕事を見つけて動けるようになったり、朝会って「今日はこれこれこうですよ」という風に自分から流れを確認してくれたりするようになる。これはきっとどんな仕事についても役に立つことじゃないかなと、思います。**【スライド⑤-21】**

そして今後の課題ですね。先ほど藤田先生もお話しになりましたけれども、伝え方の工夫を後期にしていってほしいんじゃないかな。準備してきてくれることが、とても正確なんだけれども分かりにくいことがあるんですね。それは、相手の頭の中をイメージして、どういう順番で話していったらすんなり入っていくのか?文字の大きさをどうすればいいのか?図解したり、もう少し別の見せ方があるんじゃないかということ工夫する、ということの後期にやってほしいんじゃないかと。あとはスケジュール、体調管理。やはり、院生さんですので、院の勉強が大変になってくると、明らかにしんどそうな顔になって、レポートが……とか、そういう時には顔色も悪いし、でも授業に来たら、その時間は元気に、しっかりとやってもらわないと困るので、そのあたりの体調管理は自分で上手にやっていただけたらと思います。**【スライド⑤-22】**

以上です。どうもありがとうございました。

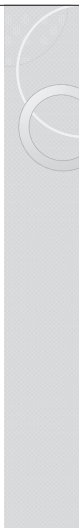
【スライド⑤-1】



中級B・DにおけるT.A.の役割

中級B（前期）D(後期) 担当
谷 啓子

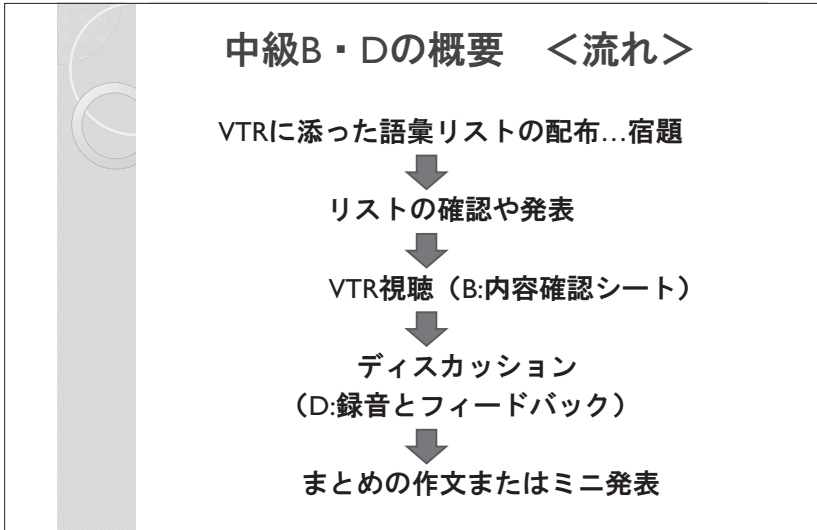
【スライド⑤-2】



中級B・Dの概要

- いずれも映像素材を使用。
- 前期B（NHKクローズアップ現代）
「買わない消費者急増中」
「結婚したいのに～止まらない未婚化」
「育メンでいこう！」
- 後期D（NHKエンタープライズ
「しばわんこの和のこころ」）
...四季の特徴と年中行事

【スライド⑤-3】



【スライド⑤-4】

The screenshot shows a news article from NHK World Japan. The main headline is "イクメンで行こう! ~男の育児が社会を変える~" (Let's go with Ikumen! ~Men's childcare changes society~). The article is dated 2010年10月5日 (October 5, 2010). The content discusses the trend of men participating in childcare (Ikumen) and its impact on society. A video player is embedded in the article, showing a man and a child. A text box at the bottom of the page reads "中級B「クローズアップ現代」" (Intermediate B 'Close-up Modern').

【スライド⑤-5】



【スライド⑤-6】

T.A.の役割

- ① 一参加者として活動に参加する
- ② ティーチング経験：
 - 語彙説明
 - ディスカッションのまとめ役
 - 板書補助
- ③ 履修学生へのフォロー
- ④ 機材操作、提出物回収など事務補助

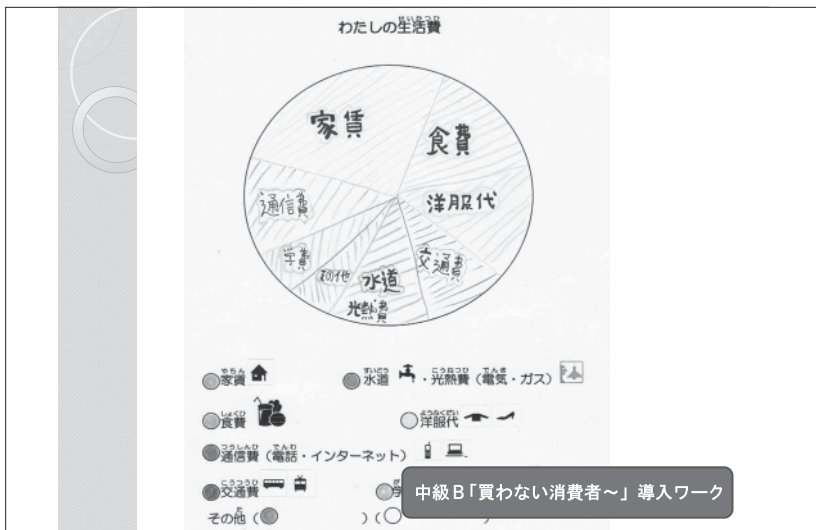
【スライド⑤-7】

T.A.の役割

①一参加者として活動に参加する

- ・ 授業中、履修学生と一緒に同じタスクに取り組む
- ・ モデル発表

【スライド⑤-8】



【スライド⑤-9】

テーマ3：イクメン

・あなたが子どものころ、家庭内の家事は、誰が何をしていましたか。
 ・あなたの家では、子どもの世話は誰がしましたか。

わが家の家事分担 父 母 祖父 祖母 子ども

👉 手が空いた人がやる (○) 早く帰った人がやる
 (み) みんなでやる ✕ だれもやらない

	平日 (月) 一 母	休日 お父さん
食事を作る		
皿を洗う		
コーヒー/お茶を入れる		
そうじをする		
👕 せんたくをする		
ゴミを出す		
ふとんをほす		

中級B「イクメンでいこう」導入ワーク
『にほんご宝船』アスク出版

【スライド⑤-10】

あなたの出身地

日本

(気候の区分) (旧暦)

1月 ↓

2月 ↓

3月 春 ↓

4月 ↓

5月 ↓

6月 夏 ↓

7月 梅雨 ↓

8月 ↓

9月 秋 ↓

10月 ↓

11月 ↓

12月 冬 ↓

春：現在の24頃
～4/20頃

夏：現在の5/6頃
～7/23頃

秋：現在の8/8頃
～10/24頃

冬：現在の11/8頃
～2/4頃

出身地の季節を書き
いれ、自分の好きな季節と
ともに紹介する

中級D 導入ワーク (旧暦・季節比較)

【スライド⑤-11】

T.A.の役割

②ティーチング経験
(例)

前期：語彙説明や日本事情説明
(各リストにつき1つ)
ディスカッション司会

後期：日本事情説明
ディスカッションの司会と録音、
フィードバック

【スライド⑤-12】

②ティーチング経験

「買わない消費者急増中!？」(第1回)


次のことばでわからないものがあれば、確認しましょう。

消費	
過熱する	
バブル(時代)	
全盛期	
ブランド物	
買いあさる(熱る)	
マイカー	
レジャー	
ステータス (ステイタス)	
スタイル	

中級B「買わない消費者～」語彙リスト

【スライド⑤-13】

味わう



×味わう
がつつ食(た)べる
ばくばく食(た)べる

○味わう

【スライド⑤-14】

T.A.の役割

③履修学生へのフォロー

—背景・レベルの異なる学生が混在する教室で

【スライド⑤-15】

授業・履修学生にとってのメリット

- リアルな20代日本人若者。生教材そのもの。
⇒担当教師以外の日本語や価値観に触れることができる
（日本社会を扱う中級B・Dの内容に最適）
- 小グループの活動が頻繁にできる
⇒学生の発話量が増える

【スライド⑤-16】

授業・履修学生にとってのメリット

- 学生をみる目が複数ある
⇒異なるレベルの学生のフォローが可能
⇒授業後に学生の様子をシェアできる
- 気軽にコミュニケーションがとれる存在

【スライド⑤-17】

T.A.に学んで欲しいこと ～現場でしか見えないこと～

中級B,Dの現場から...

- 学習者（履修学生）の‘レベル感’
- 学習者が‘学ぶ’‘使う’瞬間
- 教室の‘現場感’

【スライド⑤-18】

T.A.に学んで欲しいこと ～現場でしか見えないこと～

- 学習者の‘レベル感’
 - 単純に区切れるものではない
 - 個の中の4技能のバランス
 - （母語で）持つスキルが生かされる

【スライド⑤-19】

**T.A.に学んで欲しいこと
～現場でしか見えないこと～**

- 学習者が‘学ぶ’ ‘使う’ 瞬間
 - 「こう言いたい！」必要なタイミングでのフォロー
 - 学習者同士で学ぶ
 - 難易度が高めの語彙でも、テーマに添った流れの中であれば使いこなす
 - ⇒ レベルの異なるメンバーでも活動が可能

【スライド⑤-20】

**T.A.に学んで欲しいこと
～現場でしか見えないこと～**

- 教室の‘現場感’
 - 教室の設営
 - トラブル対応

【スライド⑤-21】

T.A.に学んで欲しいこと
～現場でしか見えないこと～

- 成長を感じる点
 - 履修学生への対応が自然になる
 - ボードへの板書が上手になる
 - 自分から必要な仕事を見つけて動けるようになる

【スライド⑤-22】

T.A.に学んで欲しいこと
～現場でしか見えないこと～

- 今後の課題として...
 - 伝え方の工夫
 - ‘正確だが分かりにくい’（現状）
 - ⇒受け手の頭の中をイメージして
 - 分かりやすい話し方・見せ方を
 - その他：スケジュール・体調管理